

みつくら

令和 8年 9月15日 第466号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

葛丸の農村環境を守る会が臨時総会

令和7年度の国の会計検査院による全国の農地・水団体の抜き取り検査の結果、多面的機能支払交付金対象農地に雑木が生えるなどし、過大に交付金が支払われていたことが判明した。それに基づき、花巻市では6月18日付けで市内全部の農地・水団体に對し、対象農地の全面積について実態調査を行うよう通達を行った。これにより、葛丸の農村環境を守る会が調査した結果、多面的機能支払交付金対象農地の田や畑に、雑木が繁茂したり、畦畔が体を成していない農地が確認され、荒廃農地を交付金対象農地から除外する必要が生じ、交付金の減額補正のため令和8年6月29日に臨時総会を開いた（令和8年度の通常総会は、令和8年4月24日に開かれていた）。この臨時総会には、書面議決も含め28名が出席（運営委員30名中欠席2名）し、原案どおり補正金額が可決された。葛丸の農村環境を守る会が、この臨時総会に提出した交付金の減額金額は昨年度より300万円少なくなる補正金額であった。この減額補正によって、大排一斉草刈りや、自生花菖蒲園保全活動、畦畔崩落修理（2ヶ所）などが例年の事業活動から除外せざるを得ないこととなった。

葛丸の農村環を守る会で畦畔一斉草刈りを終了

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員212世帯）の畦畔一斉草刈りが7月末で終了した。この草刈りは、6月1日から2ヶ月間にわたって実施され、構成員延べ1173人が出役した。この畦畔一斉草刈りは、当会にとって最も大きな事業で、国からの草刈り対象交付金（農地維持交付金）970万円では足りず、資源向上（共同）交付金から100万円を移行して支払われる予定。板垣会長は挨拶で、今年の草刈りは猛暑のなかの作業であったが、期間中に怪我もなく終えることができたこと述べた。

菅原洋美さんが「吉本新喜劇」に出演

大瀬川出身の俳優・菅原洋美（旦ノ花家）さんは7月2

5日に吉本新喜劇「時が来た」の東京公演に出演し、両親の菅原洋二さんと美代子さんも観劇してきた。この公演は東京都港区の「吉本六本木シアター」で行われたもので、満員の席から割れるような拍手に包まれたという。あらすじは、幕末における脱藩、忠義、立身出世、信念、家族、友情などを織り交ぜた公演時間が3時間に及ぶ大作。

菅原洋二さんは、「長男の観劇は多く観てきましたが、約3千人の観客には驚きました」と語られた。菅原洋美さんは現在も、東映京都俳優部に所属。京都・太秦（うずまさ）にある東映京都撮影所を拠点にアクション俳優や時代劇俳優として活躍している。

いきいき講座で体と頭を使い脳トレ

ボランティアグループ・あじさいの会（板垣福子会長）では7月28日に花巻市長寿福祉課による「いきいき講座」が大瀬川振興センターで開催され8人が参加した。講師は長寿福祉課から栄養士と保健師、包括支援センターから支援員と保健師の計4名が担当した。

はじめに、包括支援センターの役割と、加齢に伴い身体機能が低下する「フレイル」について説明があった。フレイル防止のためにもこのような講座を受けてほしいとPRがあった。続いて、モニター画面の映像を見ながら座ったまま出来る運動をした。左右の手足で違う動きをすることで脳を活性化する運動を何種類か行った。思うように動かせず笑って誤魔化しながらも真剣に行った。また、3人が違う曲を同時に歌い、曲を聞き分ける映像では、参加者から聴きにくいという声もあった。

最後は「大工のキツツキ」の曲に合わせて体を動かすもので動作が一つずつ追加され、さらにスピードも速くなり参加者は笑いながら必死についていったが、終わるころには頭も疲れ少し汗もかいた。今回は参加者が少なかったので次回からはもっと皆を誘って参加しようと話していた。

第7区自主防災会で講習会開催

8月1日に第7区自治公民館で、第7区自主防災会（板垣孝信会長）主催の防災活動の一環として、ダンボールベッド、テントの組み方について花巻市役所地域振興部防災危機管理課主査の飛澤さんの指導で学んだ。参加者は18人で組立経験のない方々を優先に行い、最後に皆さんの質問に飛澤さんが答えて1時間の講習会は終了した。

また、新しくなった避難行動警報について詳細に説明を頂き今後の参考となった。

第7区自治公民館で「ふれあい広場」を開催

第7区自治公民館（菅原崇将館長）では、公民館事業で子供から高齢者の集いを掲げた「ふれあい広場」を8月1日午後6時から開催した。

当日は、市内に警報が出るほどの雨降りとなり、参加者は28人（内子供1人）と例年より少なかった。菅原館長の挨拶の

後、板垣孝信7区区長の乾杯で始まった。役員や有志が玄関先で肉や焼きそばなど焼き、冷房が効いたホールでは生ビール、日本酒、ソフトドリンクを飲み食いしながら親睦を深めた。

恒例となっているお楽しみ抽選会では何故か役員が上位で当たり、プーイングが起きながらも盛り上がった。菅原黎治さんの中締めの後も宴は続き、楽しいひとときを過ごした。この後、葛丸ダムが満水となり越流すると連絡があった。

子供たちと水生生物の調査を行う

下大瀬川美土里の会（熊谷俊彦代表）は、農地維持保全活動の一環として8月1日九区自治公民館前で、あいにくの雨の中、九区の親子3組と役員を含めた13人で水生生物の調査を行った。水路に網を入れてすくってみると、アメリカザリガニやドジョウ・カワニナなどが網に入り、子供たちは興味深そうに見ていた。

好友会焼肉交流会を開く

九区の好友会（藤原美輝会長 会員22名）では、恒例となっている「焼肉と生ビールで交流会」を8月1日に開催した。焼肉は公民館の外に幕舎を建て、交流会は今年冷房が入ったホールで行った。いつもは生ビールは生樽だったが、諸事情が重なり缶ビールとなった。

今回の交流会は、会員以外の方々にも回覧で参加を募った。あいにく当日は大雨になり参加者は10人と少なかったが、九区好友会はOBを含め世代を超えて親睦を深める貴重な場を作っている。

藤原会長は「盆踊りの手伝いと次回は忘年会を予定しているので、多くの参加をお願い致します」と呼び掛けた。

大瀬川公葬地の環境整備

8月2日の朝6時から大瀬川公葬地で役員13人が集まり環境整備（公葬地駐車場及び周辺草刈り）が行われた。はじめに熊谷秀夫公葬地管理運営委員長から「雨が降りそうなのに集まって頂きありがとうございます」と挨拶の後、板垣光善事務局から「前日までに菅原弘雄さんが草刈り、菅原富男さんがツツジの剪定の協力を頂いておりましたので、今朝は残った部分の草刈りと北側の道路の環境整備をお願いします」と説明があった。

公葬地を訪れる度、北側の道路に杉の葉や枝が多く落ちていて、下り坂のため車がスリップすることもあった。今回は雨が降り始める中、短時間で綺麗にすることが出来た。終了後に、飲み物と刈り払い刃が配られ解散となった。

表彰（敬称略）

J A花巻年金友の会グラウンドゴルフ大会
3位 菅原敬夫

みつくら

令和 8年 9月15日 第466号
発行 大瀬川活性化会議
編集 「みつくら」編集委員会
花巻市石鳥谷町大瀬川 10-45-2
大瀬川振興センター 電話 45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

親子連れで賑わった大瀬川盆踊り

大瀬川盆踊り実行委員会（熊谷茂委員長）は8月14日に大瀬川運動公園で4回目になる大瀬川盆踊りを開催した。この盆踊りは「わたかふえ」と「オレカフェ」のメンバーが中心になり企画と運営を行っている。また、2回目から協力を頂いている花北青雲高校から今年も生徒14名の強力なお手伝いを頂いた。

毎日天気予報を気に掛けながら、前日には熊谷委員長ら3名で櫓を組んだ。雷雨もあり当日の屋外開催が心配されたが、翌14日は、朝早くから20名以上で準備に取り掛かった。最初に出店用のテントを全員で組み立て透明のシートを張り、机や焼鳥用のU字溝を運び提灯を下げる電線などを張った。その後はそれぞれの持ち場の準備をして、昼食をはさみ買い出しに行く人、櫓に紅白幕を巻き付ける人、振興センターの厨房ではクレープの準備をする人、途中から手伝いに参加する人など、開幕に向け活気づいていった。

午後4時には青雲高校生が到着し、真っ先に自己紹介をした後各コーナーに配置された。屋台販売開始の午後5時にはもうお客さんが来始めた。屋台コーナーでは「焼き鳥・焼きそば・フランクフルト・限定クレープ30個・かき氷・ジュース・缶ビールなどの飲み物」の準備が整った。縁日コーナーでは「射的・水ヨーヨー・スーパーボールすくい」が始まった。花北青雲高校コーナーでは、丸文さんとコラボの「青雲どらやき」が限定販売された。午後6時、打ち上げ花火の合図で盆踊りの開始。大瀬川音頭や新石鳥谷音頭、炭坑節の振り付で踊れるサザンオールスターズの「希望の轍」、などを「わたかふえ」のメンバーが先導し高校生や子供たちも一緒に輪になって踊った。休憩時間では子供達に手持ち花火が配られて、高校生も一緒に花火を楽しんだ。

予定の8時より早めに踊りは終わりにしたが屋台コーナーでは特に焼き鳥が好評でほとんどが売れ切れた。また、縁日コーナーの「射的」は非常に人気で最後まで人が並んでいた。片付けが終わってから30分程反省会をして解散した。また、皆さんからは262口の協力金を頂いている。

第八区農家組合が研修会を行う

8月29日に第八区農家組合（菅原 昇組合長）は花巻農協営業部次長の高橋徹氏を講師に招いて「これからの農業について」と題して大瀬川振興センターで28名が参加して研修会を行った。農業を取り巻く環境が大きく変わる中、参加者の皆さんはお話に熱心に耳を傾け、これからの農業について改めて考える大変有意義な研修会となった。また、藤原正彦農協理事や板垣博文農協監事にもお忙しい中参加を頂いた。

研修会終了後は、会場を紫波グリーンホテルに移して懇親会を開催し、食事を囲みながら日頃の農作業や地域の農業について語り合っ

「秋期営農座談会」を開催

花巻農協が主催する「秋期営農座談会」が9月3日に大瀬川振興センターで19名（内農協6名）が出席して開催された。座談会では座長に菅原達也第7区農家組合長が司会で進められ、令和8年度の米概算金・春の資材購入や各種支援対策助成等の説明があった。まず始めに、今年の概算金（全農岩手県本部の揭示金額からJAの概算流通経費を差し引いた価格設定）が、ひとめぼれ（30Kg紙袋）1等米が8,000円、銀河のしずく（厳選）1等米が8,250円と示された。

続いて、資材注文書に、「来年の水稻苗注文（種籾価格が12月頃決定の為、価格は未定）もあるので注意して下さい。また、農薬は予約後の値上がり分の追加金はありせんし、値下がり場合は下げます。肥料予約も年内納品でお得があります。その他にも各種支援対策等もありますので資料をよく読んで農協に問合せをお願いします」とのことであった。

質疑応答の中で、薄衣本店米穀課長からは「令和7年度本精算は9月末を予定していますが、単価は現在未定となっております。花巻農協では7年度米は全て販売を終わっておりますが、8年度産米の本精算は消費税率変更が控えており対応を急いでいます」と説明があった。また、要望として「このように米価の上がり下がりがあると意欲がそがれ後継者問題にもなるので、一農協では難しいと思うが検討をお願いしたい」と参加者から意見もあった。

最後に、「参加されなかった方々には後日、各農家組合で資料を配布するので農協へお問合せをお願いして頂きたい」とのことであった。

4回目の草刈り作業を実施

下大瀬川美土里の会（熊谷俊彦代表）は、9月5日に4回目の草刈り作業を45人が参加して行った。今回は、市道と農道の草刈りとなるが、熊谷代表より「主に山祇神社例大祭の神輿渡御の道路を重点にお願いします」と挨拶があった。

また、熊谷茂事務局からも「数日前まで雨が降って路肩が軟弱です

計 報

上西海地家の菅原 豊さんが7月26日に70歳で亡くなられました。菅原さんは、12代目の当主で、父は西三さん、母はキクヨさんの長男として生まれ、高校卒業後は県南クボタ（当時）に入社、後にみちのくクボタとなり工場長の役職で定年まで勤めました。その後も委託社員で65歳まで勤務されました。会社での長い経験と優れた技術で地元でも機械トラブルの時は、多くの方が助けられました。

地域でも、平成7年山祇神社永久総代、平成13年大瀬川子供育成会長、平成22年大瀬川戦没者慰霊祭実行委員会委員、平成24年防犯協会大瀬川分会防犯推進委員、平成30年第7区自治公民館会計、同年第7区自主防災会事務局、令和2年第7区農家組合理事、令和5年大瀬川生産組合及び大瀬川分収造林組合理事兼庶務、令和7年石鳥谷西部地区大瀬川基盤整備換地評価委員等と地域におおいに貢献されました。

今年になって入院し、治療とリハビリしていますと聞き、もう少しすれば良くなって会えると皆が思っていました

が、訃報を聞いたときは、まさかと言葉もありませんでした。葬儀では、菅原教雄さん（助作かまど）、畠山勝則さん（西海地家）の弔辞の中で、豊さんは人に頼まれごとがあれば快く引き受ける方でしたと、人柄を偲ぶる話がありました。ここに、豊さんのご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

ラジオで大瀬川の歌を放送

9月4日のFM花巻ラジオで大瀬川の歌2曲が放送された。その「岩々!マーブルミュージック」の番組は、岩手に関わる歌を紹介する番組という。この日に紹介された歌はエコーくずまるが歌った「葛丸讃歌」と「やまなし讃歌」であった。今年は宮沢賢治生誕130年とあって、この歌をそれぞれ紹介したが、大瀬川と宮沢賢治の関係が上手に語られていた。同じ紹介するにも、石鳥谷賢治の会では「ガラガラ声（失礼）」だが、ラジオ放送は優しい女性アナウンサーで、賢治が葛丸に野宿したのを詠った短歌「葛丸」や「葛丸歌碑」「賢治葛丸祭」、また賢治が金矢のやまなしの下を何回（8回）も通った「やまなし」や「宮沢賢治やまなし園」、さらに「賢治やまなし祭」にも触れられて紹介していた。このラジオを聴いて、これがほんとの「地域おこし」だなあと

思った。

ツバメが巣立ちました

今年初めて菅原清孝（新山家）さんで、ツバメが車庫の中に巣を作った。5月頃に飛来して、1回目（1番子）は7羽が巣立ち、2回目（2番子）は4羽（1羽死亡）は8月に巣立った。清孝さんは、毎日ツバメに話しかけていて楽しかったと話していた。ツバメは農作物の害虫となる昆虫を主食とするため、古くから益鳥として人間に大切にされてきたので来年もやって来るか楽しみである。